

# 船舶インシデント調査報告書

平成28年1月28日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	平成27年9月15日 12時00分ごろ
発生場所	広島県呉市小麗女島南方沖 小麗女島灯台から真方位168°970m付近 （概位 北緯34°13.9′ 東経132°31.3′）
インシデントの概要	プレジャーボートSAMANTHA Vは、南南東進中、運航不能となった。
インシデント調査の経過	平成27年9月15日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート SAMANTHA V、5トン未満（長さ7.33m）
船舶番号、船舶所有者等	291-20201 広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約2m/s、視界 良好 海象：海上 平穏
インシデントの経過	船長は、出港前の点検において、主機クラッチの潤滑油配管に腐食による破口（ピンホール）を見付けたので、ゴムシート、ホースバンド等で応急修理を行った。 本船は、同応急修理箇所が潤滑油圧力に耐えきれず、航行中、同修理箇所から潤滑油が漏れ出して主機の出力が推進器に正常に伝達できなくなった。
分析	本船は、船長が、破口の生じた主機クラッチの潤滑油配管を応急修理のみで運航したことから、同修理箇所から潤滑油が漏れ出して主機の出力が推進器に正常に伝達できなくなったものと考えられる。
原因	本インシデントは、船長が、破口の生じた主機クラッチの潤滑油配管を応急修理のみで運航したため、同修理箇所から潤滑油が漏れ出して主機の出力が推進器に正常に伝達できなくなったことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・主機クラッチの潤滑油配管に破口を生じた際には、同配管を新替えするなど完全に修理を行った上で運航すること。